

2025 年度 外国人留学生入試 日本語

受 験 番 号								氏 名		志 望 学 科	
				-						学科	

◎ 問題Ⅰ，Ⅱ の答えはすべて別紙の解答欄に書くこと

問題Ⅰ 次の文を読んで、後の問いに答えなさい。(55 点)

考えをまとめようとして、なかなか思うようにいかなくて、いらいらすることがある。よく調べて、材料はたっぷりあるのだが、むしろ、たっぷりありすぎるから、どうまとめたらいいか、途方にくれる、というのかもしれない。

まとめ、というのは、実際やってみると、なかなか、たいへんな(ア) 作業であるのがわかる。その面倒さにてこずったことのある人は、だんだん、整理したり、文章にまとめたりすることを敬遠するようになる。

A、ただ、せっせと本を読む。読めば知識はふえる。材料はいよいよ多くなるが、それだけ、まとめは① (a. いっそう b. いっさい) やっかいになる。こうして、たいへんな勉強家でありながら、ほとんどまとまった仕事を残さないという人ができる。

もうすこし構想を(1)(練ります…)なくでは、書き出すことはできない——卒業論文を書こうとしている学生などが、よく、そう言う。ぐずぐずしていると、時間がなくなってきた、あせり出す。あせっている頭からいい考えが出てくるわけがない。

そういうときには、

「とにかく書いてごらんなさい」

という助言をすることになっている。ひょっとすると、書くのを怖れる気持ちがあるのかもしれない。それで自分に口実をもうけて、書き出すのを一日のぼしにする。他方では、締切りが迫ってくるという焦燥も大きくなってくる。

頭の中で、あれこれ考えていても、いっこうに筋道が立たない。混沌^{とん}としたままである。ことによく調べて、材料がありあまるほどあるというときほど、混乱がいちじるしい。(あ) いくらなんでもこのままで書き始めるわけにはいかないから、もうすこし構想をしっかりとというのが論文を書こうとする多くの人に共通の気持ちである。それがまずい。

気軽に書いてみればいい。あまり大論文を書こうと気負わないことである。力が(2)(入ります…)と力作にならないで、上すべりした長篇^{へん}に終わってしまいがちである。いいものを書きたいと思わない人はあるまいが、思えば書けるわけではない。むしろ、そういう気持ちをすてた方がうまく行く。論文でなく、(イ) ハウコク書、レポートでも同じだ。

こどものとき実によく字を書いたのに、大人になると、どうしてこんなことになったのかというほどあわれな字を書く人がすくなくない。こどものときは、無心である。うまく書こうとは思わないから、② (a. けっきょく b. かえって)、のびのびしたいい字になった。すこしほめられたりして自信がつくと、今度は上手に書いて、ほめられたいという気持ちがおこってくる。そうすると、なかなか上達しない。(い) 文章を書くのも同じであって、欲を出すと逆効果になる。

まだまだ書けないと思っているときでも、もう書けると、自分に言いひかす。とにかく書き出すと、書くことはあるものだ。おもしろいのは、書いているうちに頭の中に筋道が立ってくる。頭の中は立体的な世界

になっているらしい。あちらにもこちらにもたくさんのことが同時に自己主張している。收拾すべからざる状態という感じは、そこから生じるのであろう。

書くのは線状である。一時にはひとつの線しか引くことができない。「A と B とは同時に存在する」、と考えたとしても、A と B とを完全に同時に表現する事は不可能で、③ (a. ぜひ b. かならず)、どちらかを先に、他をあとにしないではいられない。

(ウ) ウラから言うと、書く作業は、立体的な考えを線状のことばの上にのせることである。なれるまでは多少の抵抗があるのはしかたがない。ただ、あまり構えないで、とにかく書いてみる。そうすると、もつれた糸のかたまりを、一本の糸をいと口にして、すこしずつ解きほぐして行くように、だんだん考えていることがはっきりする。

B、書こうとしてみると、自分の頭がいかに混乱しているかがわかったりすることもある。そういう場合でも、とにかく (3) (書いてみます…) うとしていれば、すこしずつだが、筋道がついてくる。

頭の中にたくさんのことが表現を待っている。それが一度に殺到したのでは、どれから書いたらよいのか、わからなくなってしまう。ひとつひとつ、順次を書いて行く。どういう順序にしたらいいかという問題も重要だが、初めから、そんなことに気を使っていたのでは先へ進むことができなくなる。とにかく書いてみる。

書き (4) (進みます…) ば進むほど、頭がすっきりしてくる。先が見えてくる。もっともおもしろいのは、あらかじめ考えてもいなかったことが、書いているうちにふと頭に浮んでくることである。そういうことが何度も起れば、それは自分にとってできのよい論文になると見当をつけてもよからう。

書き出したら、あまり、立ち止まらないで、④ (a. どんどん b. ずっと) 先を急ぐ。こまかい表現上のことなどでいちいちこだわり、書き損じを出したりしていると、(エ) 勢いが失われてしまう。

全速力で走っている自転車は、すこしくらいの障害をものともしないで直進できる。ところがノロノロの自転車だと、石ころひとつで横転しかねない。速度が大きいほどジャイロスコープ (※1) の指向性はしっかりする。

いかに論文だからとは言え、書いては消し、消しては書くといったことをしていれば、何を言おうとしているかわからなくなる。^{いっしやせんり}一瀉千里 (※2) に書く。とにかく終りまで行ってしまう。そこで全体を読み返してみる。こうなればもう、訂正、修正がゆっくりできる。

^{すいこう}推敲する。部分的な改修ではなく、構造的変更、つまり、真ん中の部分を冒頭へ、C、最後部を最初へもってくる、という大手術を加える必要もあろう。ただ、一応、終りまで行っているという安心感があるから、ゆとりを持って、工夫をこらすことができる。

※1 ジャイロスコープ：物体の向きや角速度 (1 秒あたりに進む速度) を検出する計測器

※2 ^{いっしやせんり}一瀉千里：物事の進み具合の勢いが激しく、一気に進むこと

(外山滋比古, 2024, 『ワイド新版 思考の整理学』, 筑摩書房より一部改変)

問1 (ア) ~ (エ) のカタカナを漢字に、漢字をカタカナに直しなさい。

(ア) 作業 (イ) ホウコク (ウ) ウラ (エ) 勢

問2 A、B、Cに入る最も適切な言葉を次の a, b, c, dの中から選んで記号で書きなさい。

a. また b. たとえば c. そして d. あるいは

問3 (1)～(4)の中の言葉を適切な形に変えなさい。

問4 ①～④に入る最も適切な言葉を、a, b から選んで記号で書きなさい。

問5 (あ)「いくらなんでもこのままで書き始めるわけにはいかない」とあるが、その理由を本文中の言葉を用いて50字以内で述べなさい(句読点を含む)。

問6 (い)「文章を書くのも同じであって、欲を出すと逆効果になる。」とあるが、「欲を出す」を具体的に表している部分を、解答欄につながるように本文中から10字で抜き出しなさい。

問7 「とにかく書いてみること」の効果について、筆者はどのように述べているか。本文中の言葉を用いてそれぞれ40字以内で2つ述べなさい(句読点を含む)。

問題Ⅱ 次の文を読んで、後の問いに答えなさい。(45点)

問1 次の文の_____にはどのような言葉を入れたらよいか。a, b, c, dの中から最も適切なものを一つ選んで記号を書きなさい。

(1) こんなことは、もう二度_____、やりたいと思わない。

a. さえ b. も c. と d. しか

(2) あのマンションは、新しくて駅から近くて便利な_____家賃が安い。

a. ことで b. だけあって c. どころか d. わりに

(3) 小さい時、両親は忙しくてあまり遊んでくれず寂しかった。自分の子どもにはそんな思いを_____。

a. されるものか b. させたくない c. されるべきだ d. させないはずだ

(4) 今回生じた問題の原因を明らかに_____、きちんと調査を行うことが決まった。

a. せずと b. すべく c. するまじき d. すべからず

(5) 子供が海外に留学する_____かなりの費用がかかることを頭に入れておかなければならない。

a. ともなると b. からといって c. にもまして d. かと思えば

問2 次の文の_____にはどのような文を入れたらよいか。文を完成させなさい。

(1) _____のみならず、_____。

(2) 今回の経験を機に、_____。

(3) はるばる日本に来たからには、_____。

(4) 彼は貧しいながらも、_____。

問3 次の言葉の使い方として最もよいものを、a,b,cの中から一つ選んで記号を書きなさい。

(1) せっせと

- a. 母は10年もせっせとダンス教室に通っている。
- b. 授業が終わったらせっせと家に帰り、アルバイトに行く。
- c. 今年の試験問題は易しかったのでせっせと答えることができた。

(2) あつかましい

- a. 夏だというのにあつかましい服を着ている。
- b. 毎回レストランで友達におごってもらうとは、あつかましい人だ。
- c. 隣の部屋からあつかましい音が聞こえてきて迷惑だ。

(3) 受けとめる

- a. 本校では毎年20名の留学生を受けとめている。
- b. 今回起こった事故については、重く受けとめている。
- c. 海外から送った荷物が、1か月も郵便局で受けとめられている。

(4) 口がかるい

- a. 口がかるい人は、誰からも信用されない。
- b. この店の料理はどれもおいしいので、食べると口がかるくなる。
- c. 自分のことを心配してくれる親には、口がかるくて相談しやすい。

(5) スムーズ

- a. 彼はスムーズな性格なので時間に遅れることがある。
- b. 彼女は60歳を過ぎているが、いつもおしゃれでスムーズだ。
- c. 昨日の会議は、反対意見もなくスムーズに進んだ。